

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4393100013
法人名	株式会社ケアサポート
事業所名	グループホーム 若葉園
訪問調査日	平成 19 年 7 月 20 日
評価確定日	平成 19 年 8 月 17 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月14日

【評価実施概要】

事業所番号	4393100013
法人名	株式会社ケアサポート
事業所名	グループホーム 若葉園
所在地	熊本県球磨郡多良木町多良木1, 537 (電話) 0966-42-3918
評価機関名	特定非営利活動法人あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成19年7月20日

【情報提供票より】(19年7月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 5 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 4 人, 非常勤 12 人, 常勤換算	15

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建て (平屋建て)

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(180,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(期間:退去時)	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月9日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	79 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	渡辺医院・くろにた歯科医院・球磨郡公立多良木病院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山間の静かな町の中にあるグループホームは、幾つもの公共施設に隣接し、立地条件を最大限に活用した地域との生活を支援している。入居者が安心して外部との接触を図れるよう地元で根ざした事業所として運営展開を推進しており、多くの楽しみ事や外出支援等入居者のメリハリのある生活を垣間見ることが出来る。
経験に裏打ちされた管理者のリーダーシップの下、全職員一丸となって理念の実現に向け熱意を持って取り組まれている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回初めて自己評価を行うに当たり両ユニットで管理者を中心に十分な話し合いが行われ“今日よりも明日!”をモットーに、現状に満足する事なく全員が心を一つにし取り組まれた事が窺えた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的(2ヶ月に1回)に開催され、多方面からの出席を得て、ホームでの入居者の生活の様子・行事への案内や協力依頼等運営状況まで詳細な報告がされている。又、ホームの建築に携わった建築士の出席のもと、ハード面での話し合いにより安全面への配慮もしている。今後共参加者からの多くの意見や意向を引き出す場として活用いただきたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	事務長の手書きコメントを添えた毎月の報告書は、入居者の近況や写真も同封され家族の楽しみとなっている。運営推進会議にも家族の参加が定例化しているが、参加できない家族への報告を徹底され、よりホームへの信頼に繋がっていただきたい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	入居者と共に、自治会、老人会、地域の行事・祭りに参加し地域と密接な関係が築かれている。避難訓練においても地域住民、消防団の参加を呼びかけるなど、積極的な取り組みが行われている。中学生の職場体験受け入れも予定されており、今後は、管理者や職員の持っているノウハウを地域に還元していきたいと意欲的であり多に期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	項目ごとに具体化された基本理念は、個々の尊厳を重視し、住み慣れた町で普段通りの生活が出来る様地域の各機関との連携を蜜にしなが、質の高いケアの実現に向けたものとなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のミーティングにおいて、職員は理念を復唱し共有するとともに食堂や廊下など目に触れる数箇所に掲示し、その内容を十分心にとめケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町営の温泉センターや物産館・公園などの公共施設に隣接する恵まれた環境の中、自治会や老人会・地域の行事や祭りに進んで参加している。又、入居者が自然体で地域の中に溶け込めるよう支援している。	○	今後は、地域の方に足を運んでもらう様な働きかけや、職員の介護や栄養管理に関する知識を、地元の方に還元することで新たなつながりを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めての自己評価、外部評価を受けるにあたり、その意義を周知し全職員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催される運営推進会議もすでに六回を数え、入居者や家族・ホームを建設した建築士、民生委員・行政からの参加を得て地域に根ざしたホーム運営が行われている。	○	会議では、運営上のこと、あるいは行事の企画、協力等の呼びかけなど開かれたホーム作りが行われており、この会を一方通行としない為にも参加者より、意見や要望を引き出す機会として十分活用して頂くとともに会議の状況や問題点などを参加していない家族へ報告をされ、情報を共有する取組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、毎週町の担当者を訪ね指導や助言を得たり、ホームの近況報告をするなど関係作りに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用明細送付時に、個々の入居者の近況を写真を添えて報告している。金銭の収支報告も行ない家族の安心に繋げている。	○	近況報告と共に行事予定等も同封されているが、更に献立メニューなど食に関する情報も送付されると身近なものになることが期待できる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に入居者や家族の意見・意向を十分に聞き取り、さらに面会時にも意見等を徴集し日々のケアに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者・管理者は、職員の異動や離職による入居者の精神的負担を十分理解すると共に、職員自身が働きやすい職場である為に職務上の相談や悩みを打ち明けやすい雰囲気作りに努めている。まだ開設一年目で異動は行われていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や会議、又日々のケアを通して職員のレベルの統一に努め、外部研修参加の為に勤務調整や人選に前向きである。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の中で他のGHや施設との交流があり、職員間、入居者間の関係作りが図られている。同業者とのGH連絡会議には、若い職員も積極的に参加してもらい情報の収集やレベルアップに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者や家族に安心して入居してもらう為、職員間で入居者の情報を共有したうえで、可能な方については事前にホーム内の見学や体験に対応している。特に独居や在宅からの入居など、初めて家を離れる利用者に対しては今後益々入居前の関係作りが求められる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の生活歴や趣味に配慮し、出来ることを見守り、不足の部分を補う関係作りがなされている。職員は常に入居者への感謝や労わりの言葉掛けにより共に支えあう関係を構築している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者や職員は、入居者本人や家族の希望・意向をその都度聴取し継続的なケアへ繋げている。意思表示の困難な入居者へも日々の関わりや家族との会話の中から思いを見出し対応している。	○	入居者や家族からの意見や提案等で改善した点や、新たに取り組み始めた事など機会あるごとに提示されるとさらに安心に繋がると思われる。家族の希望をふまえ居室内に温度計を設置する方向とのことで実現にむけ取り組んでいきたい。
s					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時にアセスメントを十分行い、日々の細かい暮らし方について、入居者や家族の思いを十分ケアプランに活かしている。プランについては、説明同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的あるいは入居者の状態変化に応じ、担当者会議を開きプランの見直し、変更に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や本人・家族の希望する理美容院への対応・買い物支援など柔軟に対応している。今後は、認知症対応通所介護サービスに取り組んでいきたいと摸索中であり期待できる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による週一回の訪問診療や、往診が行われている。ホーム理念にも、家族、医療機関と蜜に連携することにより”安心感”の醸成が謳われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族へ重度化・終末期の対応について、本人・家族の意思を尊重したうえで主治医の判断を仰いで対応するよう説明がなされている。	○	長期的かつ継続的に医療行為が必要になった場合は現体制では困難のようである。ホームでの生活に満足・感謝している入居者・家族は、”最後まで若葉園で・・・”の思いが強い事がアンケートより窺えた。今後、前向きに検討いただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の人格の尊重、プライバシーの保護に関して、管理者より日々ミーティングにて話し合いの場がもたれている。居室やトイレなど入居者が入っていない場合でもノックをし入室したり、面会時も面会場所を家族に尋ね、環境作りへの配慮や礼節を持った対応を確認できた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム理念に、入居者のペースで日々の暮らし方を支援すると謳われているように、大まかな日程、行事予定はあるものの一人ひとりのペースを尊重した支援や関わり方に配慮し、日程、月間予定も入居者の希望を入れ支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの好み・嗜好を本人や家族より聴集し、旬の食材を取り入れ献立を栄養士が作成している。職員が持ち寄った季節の花がテーブルで香りを放ち、献立を読み上げ職員も同じものを共に摂り、下ごしらえ・調理・茶碗洗いなど、それぞれの力量に応じ声掛けや見守りの中支援されている。	○	入居者の食事中的のエプロン使用は、十分な配慮を検討いただきたい。又、食事中的のテレビは消し、和やかな会話等更に楽しい食事を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は記録や本人の体調を考慮しながら間隔があかないよう支援している。又、職員配置を変更する事で入居者の希望する時間帯(夜間・朝)にも対応している。季節を味わう菖蒲湯や柚子湯、入浴剤を使用する際も高齢者に安心な物をかかりつけ医に相談するなど細かい配慮がとられている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる人はできる事を伸ばし、消極的な入居者へは、折り紙、計算、音読などその人に合った楽しみごとが支援されている。手先の器用な男性入居者は、ナイフで見事に鉛筆を削られていた。各棟のリビングには、細かい手作業による季節の共同制作物が来訪者の目を楽しませていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物など入居者の希望や体調に合わせ、できるだけ戸外に出かける機会を作っている。ホームの車を利用し近くのドラッグストアへ日常的に出かけ日用品の購入をしたり、町外で昼食を兼ねた外出は入居者の楽しみの一つである。又、マニュアルを作成し安全で楽しい外出支援としている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵を掛ける事での心理的な弊害について認識し、施錠無く安全に過ごせるケアの実践に取り組んでいる。徘徊がみられる入居者にも、寄り添いや見守りで本人の行動を束縛しない支援を行っている。季節柄、玄関は網戸にし開放的な雰囲気であった。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難訓練に自治会・消防署の参加・支援を呼びかけ実施している。又、救急車の到着までの対応として、骨折・ショック等項目ごとにマニュアルも準備している。	○	今後は避難場所や方法について平日頃から入居者や職員が話し合う機会を設けることや、管理者、看護師の経験を活かしホーム内の研修を行い更なるレベルアップに繋げたいと意欲的であり、多いに期待できる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導を取り入れている。食事摂取と水分摂取量をチェック表に記録し健康管理を行っている。入居者の状態や習慣で栄養や水分の摂取が少ないと判断した場合は、医師に相談したり職員で話し合い代替栄養や本人の好みの飲み物で補うようにしている。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、生け花や清涼感溢れるミニ盆栽・共同制作の壁飾りで季節感を与えている。採光もよく、一人又は気の合った入居者とゆっくり過ごせるソファや作り付けのベンチがバランスよく配置されている。ホーム全体のハードも、運営推進会議メンバーの建築士により迅速な対応がとられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	あえてクローゼットは設置せず、家族の協力を得て長年使い馴染んだ箆笥や寝具・机・テレビなどが持ち込まれている。飾り付けやレイアウトも自由に任せ、季節や本人の状態によって家具の位置を変えるなど楽しまれ思い思いの居室となっている。		